



上田郷友会創立130年と

「真田丸」「真田魂」上田の風土

上田郷友会 上田部会会長 島田 基正

来年のNHK大河ドラマ「真田丸」の放送は上田地域にとって改めて地域住民全てが地域の本当の自然、歴史、文化等その価値を知り、学び、生かすチャンスだと受け止めております。

「真田丸」は幸村が大坂冬の陣で大坂城外に築き「赤備え」六文銭の旗印で捨て身で立ち上がった出丸の事を言うのです。私は「真田丸」は出丸や砦の様な構築物ではなく真田一族の心構え「真田魂」の姿だと思っております。時の権力者がじりじりと弱いものを追いつめてゆき逆らう者もいなくなり、皆見えて見ぬふりをするそんな時に「弱い者いじめは許さない」「卑怯な真似はさせない」損と分かっているながら身を捨てて立ち上がる心と魂が「真田魂」でその魂が「真田丸」だと思えます。「真田魂」は論語に示された「智、仁、勇」として長い間受け継がれてきました。固有の風土から五感で学ぶ智恵、地球のいのちとつながりその喜怒哀楽を五感で感じ分かち助け合う愛の仁、どんな逆境にも身を捨てて立ち向かう勇氣。これは万年以上前縄文時代から「和の心」として日本列島に生きた日本人

誰もが受け継いできた「日本の心」「大和魂」だと思えます。日本人が誇りにしている武士道の本質も、この「真田魂」「和の心」に尽きますね。

「真田魂」と同じ心根は日本列島住み暮らす人間のDNAに刷り込まれています。

力で奪い合い殺し合った弱肉強食の文化の大陸と違い、日本は限られた狭い島国の中で、強いものも弱い者も全てを分かち助け合ってきた共生の文化の姿です。私は縄文人、真田幸村、赤松小三郎、山極勝三郎等は特に強くその魂を意識し、その時代に生かし日本人らしく生きたのだと思います。私は郷友会を通じ日本と日本人を学び「真田魂」「和の心」を積極的に発信する暮らしに上田郷友会創立130周年の祝意と誇りとともに挑戦します。

(参考説明1を参照)